

復職支援研修日記

12・1月

12月4日（月）

※ 午前「電子カルテの実際」21名 午後「ストーマケア」19名

12月に入り、日々気温が下がり寒い日になりました。

本日は、済生会中和病院の研修室をお借りし、研修会を開催いたしました。

午前は、電子カルテの実際について、同病院 副看護部長 森田正美 様より講義をしていただきました。

講義の前半は、電子カルテの説明や、使用するにあたっての注意事項などを学んだあと、実際に院内で使用されているパソコンを使って実習させていただきました。パソコンにて看護計画を立案する際には、定型文がある事など知り、便利だなと感じる方もいれば、個人情報を守られていると言うけど本当に大丈夫なのかなと思った方もいるようです。「PC の操作が苦手なので電子カルテは大変難しくとっつきにくく感じていましたが講義を聞かせていただき私もできそうに思い少し安心しました。」「時代の流れからも電子カルテのメリットは大きくなってはならないものとなっていますので、臨床では慣れるように使いこなしていけるよう努めたいと思います。また、デメリットであるシステムダウンや停電、活字になったことによる間違いへの思い込み（薬の名前）には注意し、電子カルテと自分の認識を常に確認しながら利用できたらと思います。」と感想を述べられていました。



午後は、皮膚・排泄ケア 認定看護師 阿曾五郎 様にストーマケアの講義をしていただきました。患者様に対する関わり方や治療中の注意事項、家族に対する指導についても丁寧に教えて頂きました。またモデル人形を利用し実際にグッズを使いながら処置の仕方についても学べ、有意義な研修でした。「約20年前に臨床で出会ったストーマを持つ患者さんの頃はこんなにも皮膚ケアグッズやケアの重要性が認識されていなかったのではないかと思います。」「ストーマの形状、皮膚の状態、患者の希望に合わせて様々なアクセサリーやパウチのタイプがあることを再確認できました。」「ストーマの装具を切ったりすることが初めてだったので体験できてよかったです。たくさんの種類があることがわかった。」と経験できたことが身につく研修でした。



12月14日（木）

※ 午前「摂食・嚥下障害の看護」26名 午後「口腔ケア」23名



本日は、受講生の皆様にプリンかゼリーを持ってきてくださいとお願いをして来て頂きました。きっと皆さまは「何をやるのかな」と思いながら研修を受けられたと思います。講師からエビスナックが配られ「舌の動きを気にしながら食べてみて」「歯の動きは」とこれまで食事をする際に気にしたことのない、唇・歯・舌の動きを意識しながら食べてみました。自分自身で感じる事で、摂食・嚥下障害のある患者様への看護の仕方を考える事が出来ました。また、食事をする姿勢なども理論をしっかりと教えて頂いた



ことが、とても良かったと思います。「高齢者の合併症で誤嚥性肺炎の予防のための体位や足底の足の置き方の工夫など、30度のセミファーラー位や90度ルールを学んだことで現場でも生かしていけたらと思いました。」「嚥下・摂食のメカニズムについてちゃんと学習したことがなかったような気がするので、興味深くためになりました。」「解剖生理を理解した上でケアに必要な知識を学ぶことが大切であることを改めて感じました。実際のケアにすぐに生かせる部分もたくさんあってとても勉強になりました。」と感想を述べられました。



午後は、天理駅前歯科診療所 歯科医師 諸井英二 先生と認定歯科衛生士 西岡孝代 様から講義をしていただきました。諸井先生のお話は、楽しく勢いがあり、看護師としてこれからどのように患者様に接してもらいたいのかを伝えて頂き、受講生の心に残ったようです。また西岡様からは、口腔ケアの方法を教えて頂き実際に行いました。「先生のお話がとても楽しくて口にお茶を含むと、ふきださないようにハンドタオルを持っていました。先生、看護師さんにずいぶん

ご苦労されたのですね。他職種と関わる時は注意したいと思います。先生が一番伝えたかったのは“偉そうにするなよ！！”ということかな～、心いたします。西岡さんのエール、受け取りました。ありがとうございました。」「口腔内を清潔に保つことは嚥下後肺炎の防止にもつながるので、今まで以上に気を付けていきたいと思いました。マウススポンジや歯ブラシを使って、実際に患者さんの立場になることは大切なことと思いました。」「口腔ケアは綿花で口腔内や歯を拭くことしかしたことがなかったので今日は学ぶことが多かったです。」

本日は一日、自身が体験することで学びが出来る研修でした。



平成 30 年 1 月 12 日 (金)

※ 午前「脳卒中の看護」20 名 午後「脳卒中のリハビリテーション」18 名



今年度最後の研修会となりました。

本日の午前は、地方独立行政法人奈良県立病院機構 奈良県総合リハビリテーションセンターの脳卒中リハビリテーション看護認定看護師 山田祐子様 石橋裕子様にご講義をいただきました。

まず「脳卒中とは何か」から講義が始まり、それぞれの病気の発生から治療・症状に至るまで、細かく教えて頂きました。そして、リハビリや患者そして家族への支援（看護）についても丁寧に教えて下さいました。突然の発症で、患者自身も戸惑い様々な不安を抱える中、看護師は「その人の人生を知り、その人を尊重する」ことを念頭に関わりを持つ大切さを教えて頂きました。

「先生お二人の講義をきいてリハビリテーション分野もやりがいがあるんだと知りました。患者さんの回復を見ることができるのもやりがいにつながると感じました。」「病態の兆候・治療についてとてもわかりやすく図や動画を通して講義していただきイメージしやすかったです。疾患によっておこる症状・障害を正しく理解した上で回復に向けての看護・援助、働きかけをしてゆく重要性を学びました。そしてまず大切なことは機能障害が起こった患者さんの思いを知識と患者さんの情報をふまえて理解してゆく、安心感を持っていただくという事に留意したいと思います。」

現場での、ご自身の体験をもとにお話しされることは、受講生が一番知りたくまた、現場を思い出すことで皆さん熱心に受講されていました。

午後は、西大和リハビリテーション病院 理学療法士 徳久謙太郎 様にご講義と技術を教えて頂きました。「リハビリテーションって何だと思いませんか」と先生の問いかけから始まりました。受講生の皆さんは「リハビリと言えば・・・機能訓練?」と思っていたのですがそうではなく「全人間的復権」だと教えて頂いたことに、そこから大きな学びだったようです。詳しくリハビリテーションや、他職種との連携について教えて頂いた後、実技を学びました。

「その人らしい生活を送れるように多職種協働とコミュニケーションの大切さを学びました。また病態や合併症も起こりやすい症状をピンポイントで説明していただき注意点や留意点を再認識できました。」「リハビリ」はできる限り生活の中で使うようにする」そして廃用症候群予防のため「できることはしてもらう」ご本人が苦痛とならぬような声掛けも大切だと思いますので心がけます。」
皆さんとても積極的に、実技をされていました。



本日をもって、平成 29 年度の復職支援研修を修了いたしました。台風の接近で、午後の講義が休講するアクシデントもありましたが、無事終了したことをナースセンター職員一同安堵しています。

受講生の皆様はとても熱心で、講師の先生方は皆口を揃えて、「講義をこんなに真剣に聞いて下さって驚いています。」「どなたも、寝ないし話をするのも緊張しました。」「質問もたくさんあり、院内で講義をするのでは大きな違いです」と仰ってくださっていました。すべての講義を受講された方、聞きたい講義をチョイスして受講される方、毎年復習のために受講される方もいらっしゃいました。

しかし残念なことが一つ。

今年も 1 つ 1 つの講義が人気で、キャンセル待ちをされる方が多数おられました。事前に受講キャンセルのご連絡を頂ければ、待っている方にご連絡をして来ていただけるのですが、当日ご連絡もなくお休みをされる方が 10 名近くおられたため、座席が空いているにも関わらず、待っている方にご連絡が出来ないことが多々ありました。

次年度は、このようなことが起こらないように、申し込み方法を検討していきたいと思います。

今後とも、受講される皆様のご協力をお願い致します。

来年度も復職支援研修を実施しますので、多くの方に来ていただければと思っています。





復職支援研修日記

11月

11月6日（月）

☀ 午前「看取りケア」25名 午後「エンゼルケア」19名

爽やかな秋晴れの日となりました。本日の研修は、皆様のご興味のあるテーマのためか、沢山の方に参加をしていただきました。事前にメイク用の必要物品をお知らせしていたため、どのような内容の講義なのか、とても楽しみです。

本日の講師は、市立奈良病院 緩和ケア認定看護師 西田由美子様をお願いをいたしました。前半は、講義とグループワーク、後半は、実技でした。患者の最期を、患者家族に寄り添う看護師の役割を学び、事例をもとにグループ内でディスカッションすることで、より「あるべき看取り」を受講生は実感したようでした。「病棟では看取りは日常であり、家族を軽視していた。寄り添うと言う考えに至っていなかった。」「人生の最期、納得のいくケアとは、グループワークを通して、改めて考える機会になりました。」と皆さん、心に感じるものがあったようです。また後半のエンゼ



ルケアでは、亡くなった患者とその家族に対する対応を学びました。その中でもエンゼルメイクの基本手順を2人一組となり、演習を行いました。「人生最後のメイクをさせていただくという厳粛な気持ちで丁寧にさせていただくことが大切だと改めて思いました。」「エンゼルケアに関わる時は、気持ちを込めて旅立ちの準備のケアを心がけたいと思います。」受講生の皆さんは、本日の講義で精神的なケアについて多くを学ばれたようでした。

11月16日（木）

☀ 午前「認知症の理解と対応」29名 午後「認知症の看護」25名

本日の講義も、大変人気のある講義です。キャンセル待ちの方には、前日にご連絡をいたしましたが、急であったにも関わらず、ご参加をしていただきました。

午前は、西奈良中央病院 認知症看護認定看護師 海下布左子様に、午後は、宇陀市立病院 認知症看護認定看護師 森下久美様にそれぞれ講義をしていただきました。



午前は、認知症高齢者が増えている現状とそれによる医療現場の現状。認知症の病態生理や予防方法、治療について学び、午後は「若い」を理解し「認知症」を理解することで、認知症患者への理解と対応の仕方を学びました。

「認知症の種類によって、対応が変わり、環境を整える必要性を知りました」「認知症の症状や行動等、なぜそのようなことをするのか理由が理解でき良かったです。」「自分が価値ある人間だと感じられる事、ニーズに合わ

せてサポートする事、不安に寄り添う大切な事、学びました」「認知症看護の奥深い事に感動しました。とても難しく感じました」

現在、病院でも施設でもとても大切な看護です。皆さん、その必要性を感じ熱心に学ばれていました。

講師の先生からも、受講生の熱心さに圧倒されましたとおっしゃっていました。



11月29日(水)

🌸 午前「採血・輸液管理」20名 午後「採血・輸液管理の実際」16名

本日は、土庫病院 看護部長 下澄子様に1日講義をしていただきました。午前は、静脈注射・固定、採血の仕方などについての基本を教えてくださいました。午後からは、実際にモデル人形を使って採血の練習をしていただきました。講義では、忘れかけていたことを思い出しながら、再確認をすることが出来、実技では、手袋をしながらの採血のやりにくさを実感していただいたようです。また、モデル人形が2体しかなかったので、待ち時間が多く、実際に練習していただく時間が少なかったと思います。



「採血の時は、準備をきちんとして、気を落ち着かせて実施したいと思います」「基本ポイントを教えてください、再認識することが出来ました」

「実技中、きちんと教えてください、よりわかりやすかったです。」「手順の確認が大切だと思いました」と参加された方は、久しぶりの注射器や留置針の感触に、看護師としてのカンを取り戻されたようでした。



事務局として、今回の研修でとても残念だったのが、20名ほどキャンセル待ちをされており、受講が出来ない状態でした。しかし当日、欠席された方が18名いらっしゃり

事前に欠席が分かっていたら、待っていた方にご連絡が出来たのではないかと考えています。

今後、このようなことが無いように、研修会の申し込みの方法を変更したいと考えています。

受講生の皆様のご協力をいただきたいと思います。



復職支援研修日記 10月

10月12日（木）

午前「訪問看護の実際」4名 午後「訪問看護事例でグループワーク」4名

10月に入り、爽やかな風が吹き、気持ちの良い秋の日々でしたが、本日から少しずつ天气が崩れてくる模様です。朝と昼の寒暖差が大きく、体調を崩しやすい季節です。受講生の皆様は、お子様の体調不良などが原因で、お休みをされる方が増えてきました。



本日は、ゆい訪問看護ステーション 所長森本広子様にご講義をしていただきました。

訪問看護の定義から、実際の現場の様子をお話頂きました。「大変なこともたくさんあるけれど、やりがいもある」と、とてもパワフルな話し方で、受講生も講義に引き込まれていました。午後は、事例をもとにグループワークです。実際に訪問看護師になった自分を想像し、関わり方を皆で検討しました。

「すごく分かりやすい授業でした。訪問看護について興味があったのですが、やはり難しいと感じてしまいました。やはり、自信がないと感じました。」「利用者さんとの事だけでなくその人の家族の事を考えて支援して行く、とても良い職業だと改めて思った」「実際にみんなでグループワークすることで、自分で気づけなかったことが気付けた。やはり訪問看護が難しいと感じた。」「グループワークするにあたり、今日はとてもゆううつでしたが参加して多方面から考えて行くことの重要さがわかりとても勉強になりました」

1人で判断をする仕事に不安を持ちつつも、患者様を中心に家族を含めて看護する魅力を皆さま感じてくださいました。

10月19日（木）

午前「面接の方法・履歴書の書き方」15名



ハローワーク大和高田 就職支援ナビゲーターの田中祐子様にご講義をしていただきました。面接の際には、事前に履歴書を送付して欲しいと言われるため、履歴書のみを送付してしまいがちですが、そのほかに職務経歴書や、送付状を添えてきちんとした書類を送れば、それだけでも人事担当者への印象が変わること、それぞれの書類もただ書くだけではなく、書き方や書類を封筒に入れるルールがある事等、詳細を教えてくださいました。人事担当者は面接だけでなく、書類からだけでも人を選考している事を知り、文書1つでもとても大切であることを学びました。また、面接への臨み方も「あなたがこの病院にとって、ふさわしいか確認をする場」であり、面接官の立場に立ってみると言う事を教えてくださいました。そうすれば、おのずと適切な服装や質問への答え方などが見えてきます。参加者からは、「自分の意思やアピールポイントややる気などを明確に伝える事、面接の方受け取る方の立場になって書類を作成する事も勉強になりました。」「内容が濃くて、時間が短かった。もっと詳しく聞きたかった。」と大変好評でした。

復職支援研修日記 9月



9月14日(木)

※午前「母子保健の動向」4名 午後「最近の親子ケア」4名

9月に入りましたが、暑い日が続きます。本日は奈良県助産師会から、中村貴代美様、木村厚子様にご講義をしていただきました。

午前の講義では、妊婦にまつわる事故等から、種々の法律改正や医療機関の整備がされたこと、統計を基に、全国と奈良県を比較して母子保健に関連し、奈良県の良い点や劣っている点をわかりやすくお話くださいました。また、虐待問題について助産師の関わりについても実情を併せて問題点も講義してくださいました。

午後は、助産師の立場からの親子ケアに関する講義です。核家族が増える中、妊娠が分かり喜びとともに、出産の不安、子育ての不安など多くの不安に対してじっくり時間をかけて寄り添い、母としての愛情を育むお手伝いをされている事をお話頂きました。



参加者からは、「昔と比べると母子保健の施策が切れまなく展開されていることを知りました。」「ひたむきさ、しなやかさ、あたたかさの中に、客観性を備えた助産師を目指したいと思いました。」と感想がありました。

助産師を対象とした研修会は、2日間4講座でしたが、4名の講師はそれぞれの立場から、助産師として働く喜びややりがいを熱く語ってくださいました。参加者も4名と少なかったのですが、皆講師の思いを受け止め、再度現場に戻り、母子と関わってみたいと思って下さったようでした。

9月20日(水)

☘ 午前「がん看護」22名 午後「緩和ケア」17名

宇陀市立病院 がん化学療法看護認定看護師 古瀬 恭子様にご「がん看護」の講義をしていただきました。

がんの予防、治療方法から告知を受けた方への精神的な援助まで、幅広く濃い内容の講義をしていただきました。受講生の周りにも、がんの告知を受けた方がいらっしゃったようで、精神的看護については特に良い学びになったようです。

「がんの基礎知識が少なかったため、基本から教えてもらいために」「患者さんに対する問いかけの対応など、例えがあってわかりやすかった。」「がん看護はこころの病気も混じり合うので、難しいし大切に困難だと思う」と受講生の皆さんも、色々な場面を思い浮かべながら受講していただいたようです。

午後は、奈良県立医科大学附属病院 がん性疼痛看護認定看護師 平野 展子様にご「緩和ケア」について講義をしていただきました。がんによる痛みは、身体的な痛みだけではなく、精神的痛み、社会的痛み、スピリチュアルペインの全人的痛みがあり、それに対して包括的にアセスメントすることが大切であることを教えて頂きました。また、身体的痛みに対する薬物治療



についても詳しく講義をしていただきました。

「薬物療法の話は、難しかった」「少しの頭痛でも辛いのに、がんの痛みは想像を絶するものだと思うけど、昔より緩和のコントロールが良くなっていると思いました」「看護師の専門分化は凄いと思いました。」

本日の講義は、薬物療法も大切ですが、精神的なケアについての重要性と看護師としての心に寄り添った看護（言葉のかけ方）などの多くの学びを得た一日でした。

復職支援研修日記 8月



8月7日（水）

☀️午前「介護保険サービスの概要」10名

8月に入って第一回目の研修ですが、なんと大型台風が近畿に接近してきます。

急ぎよ午後の研修は中止としました。また、午前中から奈良県全域に警報が出たため、子供さんの学童の都合で止むを得ずキャンセルの受講生もいらっしゃいました。

そのような中本日は、NPO 法人奈良県介護支援専門員協会 菊川節子様に「介護保険サービスの概要」について講義をしていただきました。

介護保険の導入の経緯や、その仕組みなど、現在私たちも介護保険料支払っていますし、また高齢の家族を抱える中で、どのように利用をすればいいのか、またそのことがどう仕事に役立つのかなどを考えながら学ぶことが出来ました。

「介護保険サービスは複雑でケアマネージャーは大変だと思った。」「出来るだけ、親も自分自身も自力で生活が続けられるように予防出来ることはやっていきたい」「介護は今後の大きな課題でもあると感じてはいたが、かなり難しい問題であると考えさせられた」など、自らの現状と照らし合わせてシビアな感想を持たれた方が多かったようです。



8月25日（金）

☀️午前「褥瘡ケア」 23名 午後「排泄ケア」 21名



本日は、済生会奈良病院 皮膚・排泄ケア認定看護師の山崎知栄様と森田マリ子様にご講義をしていただきました。午前は山崎様から「褥瘡ケア」についてです。資料も図や写真を用いてとても見やすい物でした。皮膚はどのような構造をし、どのような作用をしているということから始まり、学んでいたが忘れてしまっていたことをまず学ぶことから始まりました。そして高齢者の皮膚の構造から、いろいろな条件が重なることで、褥瘡を発生させてしまうことを学びました。受講生の皆さんが学生時代に、褥瘡の予防に円座

を用いると学んだと思いますが、現在は、適切なポジショニング、その他のクッションの使い方等、そのほかズレの防止や皮膚の保清など、褥瘡の予防に必要なことを多く学びました。しかし、十分な予防をしていても褥瘡が発生してしまえば、適正な評価をし、そのための治療をし、ひどくならないようにチーム一丸となって対応をすることを学びました。「褥瘡の処置を行うだけでなく、一番大切な事は、そのものの原因を考えて、予防に努める事が何より大切だと感じます。とても奥深い看護だと思いました」と感想を述べてくださいました。

午後は森田様の「排泄ケア」の講義です。排尿や排便は、人間として必ずある生理機能ですが、この介助をするにあたっては、精神的なケアまで求められる大切なものです。その人の人格を尊重しつつ関わる大切さを学びました。排泄の機序から排泄障害、治療、排泄ケアに至るまで、奥が深い

学びです。おむつ選び一つをとっても、排泄パターンや量、介護者の事を考えて選ぶことも学びました。そして、最近のおむつや導尿のグッズなども見せてもらえ、色々な物品が新しくなっていることに驚きました。「排泄の自立を妨げず、自尊心を低下させない援助を心がけます。尊厳を守る事を大切にします。先生の『ご本人がスッキリしたと言う感覚が大切』とおっしゃったことが印象的でした」と受講生も改めて、患者様個々を大切にすることを感じられたようでした。



8月31日(木)

※ 午前「訪問で働く助産師とは」 4名 午後「病院における助産ケア概念と実際」 3名
本日は、助産師や産科で勤務を希望する看護師を対象とした研修会です。毎年潜在助産師を対象とする研修会には参加者が少なく、とても良い講義にも関わらずとても残念です。



午前は、一般社団法人 奈良県助産師会 保健指導部会 もとやま助産所 助産師 元山美貴様にご講義をしていただきました。助産師は、開業権があり自身で訪問をしたり来院していただき、褥婦さんの相談を受ける事が出来る意味あり責任のある仕事である事、訴訟問題も引き起こすこともあるけどとてもやりがいのある仕事だと言うことを、熱く語ってくださいました。「訪問助産師さんの活動は乳房や産褥や育児などを通じ精神的な心のケアを支える所が大きな役割を果たしている所と思いました。法規や保健の理解をし知識を得ていくべきと思いました。」と感想をのべていらっしゃいました。

先生のお話から、とても分かりやすくまた自信をもってお仕事に打ち込んでおられることが良く分かりました。

午後の講義は、大和高田市立病院 西原八重美様からご講義をいただきました。午前と違い病院内での助産についての講義です。また午前の講義が正常な分娩なら午後の講義は異常分娩についてです。事例検討をしながらの学びとなりました。「久しぶりの専門用語など難しい点もありましたが、少しずつ思い出しました。」「事例をもとに様々なケースを見せて頂きながら今までの学びを振り返る事が出来ました。」としばらく現場を離れていた受講生の皆様には、少し難しいところもあったようですが、少しずつ助産師としてのカンを取り戻すような講義だったようでした。



復職支援研修日記 7月



7月12日(水)

※午前「フィジカルアセスメント」26名 午後「急変時看護」24名

7月です。梅雨明けはしていませんがとっても蒸し暑いです。
しかし、丁度お昼の時間に短時間ですが、ものすごい雨が降りました。
暑い中、受講生の皆様も頑張ってお勉強をしてくださっています。



本日は一日、奈良県立医科大学附属病院 救急看護認定看護師 溝上大輔様に「フィジカルアセスメント」「急変時の看護」について講義をしていただきました。

フィジカルアセスメントとは何かから始まり、情報収集のポイント、各症状別の評価の仕方を詳しく教えていただきました。また、急変時の看護では、午前中に学んだフィジカルアセスメントを踏まえて、蘇生術やAEDの使用の仕方を学びその後は実践練習です。



呼吸音を聴く際には、聴こえたり聴こえなかったりする音に耳を澄ませ、異常音を確認されました。また、蘇生術の実践の際には、8名のチームに分かれモデル人形を使い、胸骨を圧迫する人、人工呼吸、AEDを操作する人など役割を決め、実技をされました。意識を確認し、周囲に応援を頼み、蘇生の場面に立ち会った

ときに対応できるように受講生は真剣に取り組まれました。「内容が濃く、ブランクがあり准看なので正直難しく感じる面もありました。」「忘れていた事や経験不足な面も多く、今回のすべての項目が大切な事ばかりなので、改めて学習し直す必要性を痛感しました。」「実際にAEDの使用や心臓マッサージ等をしてみて良く理解が出来ました」と良き学びが出来、多少なりと不安が解消できた感じでした。



7月28日(金)

※午前「フットケア」25名



今月は、蒸し暑い日が続いています。受講生の皆様は暑さに負けず皆さん出席して下さいます。

本日は、JCHO 大和郡山病院 糖尿病看護認定看護師 餅田友希様に「フットケア」の講義をしていただきました。

「フットケア」の研修と聞いて「足浴」「爪切り」「マッサージ」「浮腫」「保清」「白癬」のキーワードを思い浮かべ、そのようなことが中心の研修会だと思っていたのですが、講義を聞いてその奥の深さに皆さん研修を聞いてよかったと感想をおっしゃっていました。

フットケア一つをとっても、その基礎疾患、足の状態の観察、神経症状、などアセスメントをする項目がたくさんある事に驚きを隠せなかったようです。

「日常生活をする上で、保清ケアなどなかなか足を意識することが少なかったと改めて感じました。今回の講義にてあわ立て方など様々身近に活用できそうなことがあったので、足の観察をしていきたいと思いました。」「簡潔かつ濃い授業でした。もう少し長く時間をとってもらって、動画をすべて視聴したり演習が出来ると良かったです」



皆様の熱心に勉強される姿勢に、頭が下がります。多くのご意見は、来年のプログラムに役立てたいと思います。

復職支援研修日記 6月



6月6日(火)

★午前「感染予防の基本」20名 午後「経管栄養の実際」25名

本日から、平成29年度復職支援研修の開始です。

研修会開催前から、多くの方からお問い合わせがあり、すでに、受講定員が一杯になった講座もあります。職員一同感謝しております。一人でも多くの方に受講をしてもらいたいと思っています。半年間、よろしくお願いをします。

午前は、医療法人社団松下会 白庭病院 感染対策室室長 感染管理認定看護師 木野田 利枝様に「感染予防の基本」について講義をしていただきました。前半の講義では、何故感染症対策が必要なのか、その予防策や具体策について教えていただきました。また、現場ですぐに役立つ、おむつ交換時の感染対策など写真を見ながら分かりやすく解説をしていただきました。後半には、マスクやエプロンの着脱の手技や、ブラックライトを用いて手洗いの効果を確認することが出来ました。

感染に対する意識が変わっていることに、皆さん驚かされていました。

午後は、桜井市訪問看護ステーションさくら 管理者 下出和子様「経管栄養の実際」の講義をいただきました。

栄養剤の使い方、その際の身体管理、胃瘻の管理や保清など、細かな項目を1つ1つ丁寧に説明していただきました。また、実際に現場で使用している物品を触らせていただき、実感しやすくなりました。実践的なお話で、様々なトラブル時の対応方法もお教えいただきました。受講生からは、
「わかりやすく教えていただけました。実技もあったので、手に取って出来たことがうれしかったです。」と大変好評でした。



第1回目でしたので、受講生の皆様にも少し緊張感があったように感じました。回を重ねるうちに受講生同士仲良くなり、情報交換も活発になさると思います。ナースセンターの職員も今回からの担当ですので不手際があるかと思いますが、受講生の皆様が満足をしていただけるよう、精一杯お手伝いをしたいと考えております。どうぞよろしくお願いをいたします。

6月14日(水)

★午前「最新医療・看護の動向」「看護職の現状」20名 午後「吸引の実際」25名



梅雨に入ったと言うのに、とても爽やかなお天気の日が続いています。受講生の皆様もとても元気に研修センターに集まって頂きました。本日は、初めての企画「ランチョンプレゼンテーション」が始まります。皆様にとって、良い時間になれば良いと思います。

午前の前半は、奈良県看護協会の平会長から「最新医療・看護の動向」について講義をしていただきました。2025年問題をふまえて、看護師が必要な現状を、そして奈良県で看護師

が必要な現状を、データだけでなく看護協会の会長として肌で感じる事を、これまでの経験を生かして看護師とはなんであるかをお話頂きました。現場の話もしていただいたので、受講生の看護の心に火が付いたのでは無いでしょうか。

次にナースセンター 中村部長から「看護職の現状」について講義をしていただきました。会長の話をふまえて、看護の資格を有しながら現在働いていない方に対して、ナースセンターはどのようなフォローアップをしているのかをお話しました。また、お仕事を探す際の注意点なども話され、皆さん熱心に聞いて下さいました。



午後は、あいナース学園前訪問看護ステーション 訪問看護認定看護師の中田幸子様「吸引の実際」について講義をしていただきました。吸引に際しての注意事項から、備品の管理までを細かく教えて頂きました。またモデル人形を使って、実際に吸引を体験していただきました。受講生からは「実践に添った講義でわかりやすかったです」「わかりやすい講義でしたが、頭でわかっているだけでも実技になると戸惑いました。患者さんが相手だともっと緊張してしまうと思います。」などのご意見を頂きました。

ランチョンプレゼンテーションには、奈良東病院の棚田看護部長様に来ていただき、病院の説明をしていただきました。受講生は、直接看護部長さんのお話が聞けて「自宅から遠いので働くことは出来ないけれど、魅力ある看護部長さんのお話が聞けて、こんな病院で働きたいと思いました。これからも色々な病院の方のお話を聞いて、情報収集したいと思いました。」と言われていました。

今回、看護協会の会長の貴重なお話を聞くことが出来たり、また知らない病院の情報を聞いて、働くことへの意識が変わったりと皆さんの心の中に、色々な変化が見られて一日だったように思いました。

6月22日(水)

※午前「糖尿病の看護」30名 午後「糖尿病の看護技術」28名

本日も暑い中、多くの受講生に来ていただきました。

今日は、天理よろづ相談所病院 糖尿病認定看護師安仲 恵 先生に「糖尿病の看護と看護技術」について1日講義をしていただきました。

午前中は写真などをたくさん使い、病態生理や患者さんへの関わり方を中心に午後は実技と、とても分かりやすい講義でした。



「糖尿病は生活に密着した中で継続的に関わっていく指導技術が勉強になりました。」
「糖尿病薬＝低血糖注意!!と単純に考えていましたが、薬のタイプによって作用が随分違うんだなあと思いました。」「実際に血糖測定やインシュリン注射器を手にとって実技してみて、初めてわかりました。見て聞いているだけでは本当に理解できないけれど、手にとれて良かったです。年々難しくなってきましたね。」「糖尿病治療は日々進化しているので、最新の情報を学べて参考になりました。」と新しい学びが出来て皆さん満足をされていました。

ランチョンプレゼンテーションには、平成記念病院、高田市立病院、中井記念病院の看護部の皆様に来ていただき、病院の説明や実習の説明をしていただきました。この機会があったことで、実習を希望して下さいました受講生の方もいらっしゃいます。多くの病院や施設に実習をして下さり、職場復帰に自信を取り戻し、ご自身にとって働きやすい職場を見つけていただければと思っています。